

令和8年度

「運営に関する計画」

大阪市立滝川小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「一人一人が大切にされる学校づくりをめざす」という学校教育目標をかかげ、「自己有用感の向上」「個別最適な学び」をめざし、継続的に取り組みを進めていく。

【安全・安心な教育の推進】

「一人一人が大切にされる学校」を実現するために、一人一人の子どもが学級、学校を自分の居場所だと感じ、遠慮なく自分の思いを表現できる場になるように、様々な教育活動に取り組んでいる。

令和7年度末学校生活アンケートでは、「学校生活は楽しい」の設問に対して肯定的な回答をした児童の割合が92%と昨年度末より5ポイント上昇した。自己有用感の指標となる「自分にはよいところがあると思う」の設問に対して肯定的に回答する児童の割合は86%で、これも3ポイント上がっている。学校生活の中で、自分らしさを発揮し、集団の中で認められる経験を増やし、新しい課題に挑戦していこうとする意欲が育ちつつあるといえる。

一方、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は78.4%と市平均より4.6ポイント下回っている。「理由があればいじめは仕方がない」という雰囲気をなくさなければ、一人一人が大切にされる教育を実現することはできない。

今年度も「いいとこみつけ」を積極的に活用し、多くの教職員が子どものがんばりをたくさん認めていくことなどを通して、小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「一人一人が大切にされる学校」の実現に向けて、個別最適な学びにつながる様々な教育活動に取り組んでいる。

ここ数年間にわたって「全国学力・学習状況調査」や「大阪府すくすくウォッチ」「大阪市学力経年調査」等の学力に関する調査において安定して高い水準の成果が出ている。観点別学習評価の取り組みを継続し、個の伸長に効果的な支援のあり方を探るとともに、知的好奇心を揺さぶる授業改善に努めていきたい。

また、総合的読解力プログラムを試行する元となる力を見取る設問(大阪市小学校学力経年調査)である「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する最も肯定的な「思う」と回答する割合は39%で、大阪市平均より3ポイント低い。授業研究の成果を日々の授業に落とし込んでいく必要がある。

学習基盤の一つ「情報活用能力」の育成については継続して取り組んでいく。AIを効果的に活用していくための「情報活用能力」の系統性を再構築していく。

体力については、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」や校内調査の結果からは、全体的な測定値の低下、体力の二極化など多くの課題が表れている。このような課題を解消するために、教科体育の充実や運動遊びの活性化などに取り組んでいきたい。

また、保健指導、栄養指導、ガッツ週間の取り組みを通して児童の生活習慣の改善に向け引き続き取り組みを進めていくことが大切である。

【学びを支える教育環境の充実】

「教員の働き方改革」については、教員の時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ1年間の時間外勤務時間が360時間以下（基準1）の割合が36.7%（R8.2時点）で、大阪市平均より低い。しかし令和6年度の割合は31.0%であったことから、5.7ポイント改善されている。これは毎週水曜日の退勤時刻を18:00にし、厳格な運用に努めた成果といえる。引き続き退勤時刻を意識した働き方を推進していくようにする。

教育委員会と連携しながら、学習者用端末の効果的な活用を模索する。デジタル教科書や生成AIを活用し、児童の学び方や先生の働き方が生まれ変わるような方策についても抜本的な検討が必要な時期に来ていると考えている。

また、思考力や創造力を高めるために、読書習慣の形成にも努めていきたい。

【中期目標】

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。
- 学校生活アンケート「ICT機器を使って、自分やグループの考えを伝えることができた」に対する肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。
- 学校生活アンケート「学校は情報や情報手段を主体的に選択し、活用していく力（情報活用能力）の育成に努めていると思いますか」の設問に対して肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査の児童質問紙「読書は好きですか」の問いに対し、肯定的に回答する児童の割合を70%以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教育の質の向上を図るために学校課題や児童の情報等を教職員で情報共有するシステム（いいところみつけ・心の天気・いじめアンケート・学習のふりかえり）を有効に活用していると回答する教員の割合を90%にする。
- 仕事と生活の両立の調和（ワークライフバランス）を可能とする働きやすい環境を整備し、基準2（1年間の時間外勤務時間が720時間以下。時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下。時間外勤務時間が100時間を超える月数が0。直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0）を満たす割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「授業でパソコンをどれくらい使っていますか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を75%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 学校生活アンケート「相手を思いやる言葉づかいをするようにしている」に対して肯定的回答する割合を80%以上とする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も現状値以上をめざす。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。
- 小学校学力経年調査の児童質問紙「読書は好きですか」の問いに対し、肯定的に回答する児童の割合を70%以上とする。
- 学校生活アンケート「ICT機器（パソコン・タブレット・カメラ・大型モニターなど）を使って、自分やグループの考えを伝えることができた。」に対して、肯定的回答する割合を児童80%以上にする。
- 学校生活アンケート「学校は情報や情報手段を主体的に選択し、活用していく力（情報活用能力）の育成に努めていると思いますか。」に対して、肯定的に回答する割合を保護者80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教育の質の向上を図るために学校課題や児童の情報等を教職員で情報共有するシステム（いいところみつけ・心の天気・いじめアンケート・学習のふりかえり）を有効に活用していると回答する教員の割合を80%にする。
- 仕事と生活の両立の調和（ワークライフバランス）を可能とする働きやすい環境を整備し、基準2（1年間の時間外勤務時間が720時間以下。時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下。時間外勤務時間が100時間を超える月数が0。直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0）を満たす割合を90%以上にする。
- 学習者用端末の日別活用率が80%以上の日数を、年間80%以上にする。

大阪市立滝川小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(R7:78.4%) ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R7:1.9%) ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R7:4人中2名改善で50%) ○ 学校生活アンケート「相手を思いやる言葉づかいをするようにしている」に対して肯定的回答する割合を80%以上とする。(R7:86%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他者(人・もの・できごと)を大切にし、相手を思いやる言葉づかいをする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎週金曜日のたてわり班活動、わくわくタイム(毎週水曜日の低学年、毎週木曜日の高学年)の活動を通して、相手を思いやったり敬ったりする気持ちを高める。 ○ 異学年とのたてわり班活動を通して、下級生への心情を育み、自己肯定感を高める。 ○ 学校生活アンケート「ふれあい班活動やスマイルタイムを通して、友だちを大切にし、やさしく接することができた」に対して肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上とする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安心安全な教育環境の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校児童の登校支援に取り組む。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校傾向が見られる児童への早期対応を組織的に行う。 ○ 心の天気やミマモルメを活用し、欠席、遅刻、行きしぶりの児童について情報共有をする。 	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児・児童の発達や学びの連続性をふまえ、併設幼稚園がある利点を生かし、園児を思いやる心を育てる活動を行う。 	

指標 ○ 発達や学びの連続性を見通した学習計画を構築し、学年ごとに、以下の取り組みを行う。	
1年	スマイルタイム・2月 もうすぐ1年生 ～小学校を体験しよう～
2年	スマイルタイム・2月 おもちゃランド「滝川っ子まつり」
3年	スマイルタイム・5月 春みつけ学習
4年	スマイルタイム・10月 スマイルタイム DX ～体育館で遊ぼう～
5年	スマイルタイム・11月 作って遊ぼう！
6年	スマイルタイム・6月 スマイルタイム DX ～運動場で遊ぼう～
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 相手を思いやる言葉づかい ② 不登校への対応 ③ 幼小交流	
今後の改善点	
① 相手を思いやる言葉づかい ② 不登校への対応 ③ 幼小交流	

大阪市立滝川小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。(R7:38.7%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も現状値以上をめざす。</p> <p>国語 4年(R6)1.15→(R7)1.08▼ 5年 (R6)0.99→(R7)1.09△ 6年(R6)1.05→(R7)1.06△</p> <p>算数 4年(R6)1.13→(R7)1.18△ 5年 (R6)1.03→(R7)1.20△ 6年(R6)1.20→(R7)1.07▼</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R7:75.5%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R7:82.7%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。(R7:66.3%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査の児童質問紙「読書は好きですか」の問いに対し、肯定的に回答する児童の割合を70%以上とする。(R7:70.6%)</p> <p>○ 学校生活アンケート「ICT機器(パソコン・タブレット・カメラ・大型モニターなど)を使って、自分やグループの考えを伝えることができた。」に対して、肯定的に回答する割合を児童80%以上にする。(R7:79%)</p> <p>○ 学校生活アンケート「学校は情報や情報手段を主体的に選択し、活用していく力(情報活用能力)の育成に努めていると思いますか。」に対して、肯定的に回答する割合を保護者80%以上にする。(R7:87%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 情報活用能力の育成を図る授業を土台にして、AARサイクルの過程の中で子どもが自ら学びを調整し、継続的に自らの思考を改善できるような学習指導のあり方の研究に取り組むことで、主体的・対話的で深い学びに迫る授業スタイルを構築する。</p>	
<p>指標</p> <p>○ 学校生活アンケート「ICT機器(パソコン・タブレット・カメラ・大型モニターなど)を使って、自分やグループの考えを伝えることができた。」に対して、肯定</p>	

③ 運動能力向上

④ 早寝・早起き・朝ごはん

今後の改善点

① 授業スタイルの構築

② ICT を活用した学習

③ 運動能力向上

④ 早寝・早起き・朝ごはん

大阪市立滝川小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 教育の質の向上を図るために学校課題や児童の情報等を教職員で情報共有するシステム(いいところみつけ・心の天気・いじめアンケート・学習のふりかえり)を有効に活用していると回答する教員の割合を80%にする。(R7:86%)</p> <p>○ 仕事と生活の両立の調和(ワークライフバランス)を可能とする働きやすい環境を整備し、基準2(1年間の時間外勤務時間が720時間以下。時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下。時間外勤務時間が100時間を超える月数が0。直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0)を満たす割合を90%以上にする。(基準2 R7:91%)</p> <p>○ 学習者用端末の日別活用率が80%以上の日数を、年間80%以上にする。(R7:69.5%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>○ 教育の質の向上を図るために学校課題や児童の情報等を教職員で情報共有するシステム(いいところみつけ・心の天気・いじめアンケート・学習のふりかえり)を有効に活用する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の天気の入力に応じた声掛けをし、いいところみつけを日々入力することで、懇談会や成績入力などに役立てる。それらを児童理解に活用した、というアンケートの肯定的回答を70%以上にする。 月一回以上は「いいところみつけ」に、児童の様子、教職員に周知すべき事柄、次年度以降に引き継ぐ内容、懇談会で伝えたいことなどを入力する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○ 仕事と生活の両立の調和(ワークライフバランス)を可能とする働きやすい環境を整備し、基準1を満たす割合を40%以上にする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議の精選は続け、さらに、研究授業のあり方を工夫し、準備や討議にかかる時間を短くしながら質を高める。そして、基準1(月の時間外勤務が45時間を超える月が0、尚且つ年間時間外勤務が360時間以下)を満たす教職員の割合を35%以上にする。 基準2に関しては75%以上達成を継続する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>小学校学力経年調査における「授業でパソコンをどれくらい使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を75%にする。</p>	

